

「内輪もめ」

ルカの福音書 11:14~28

はじめに

今日の箇所は「ヘルゼブル論争」と呼ばれる、イエシュアが群衆から悪霊呼ばわりされるという出来事です。私たちは人に誤解されたり、あらぬ疑いをかけられたりしたら、反射的にそれを否定しようと必死に弁明します。ではイエシュアはどうでしょうか。やはりイエシュアはどんな時も「神の国の奥義」を、たとえで語っておられます。では今日もそれらを読み解いてまいりましょう。聖霊の助けがありますように。

1. 悪霊を追い出す

ルカの福音書【新改訳 2017】

11:14 さて、イエスは悪霊を追い出しておられた。それは口をきけなくする悪霊であった。悪霊が出て行くと、口がきけなかった人がものを言い始めたので、群衆は驚いた。

「イエスは悪霊を追い出しておられた」というこの働きは、様々な病の癒しの奇蹟と並び注目される主イエシュアの代表的な御業の一つです。それはやがてご自身がお建てになる「神の国」において、彼ら悪霊の居場所はどこにもないことを示した象徴であり、かつてエバを惑わし、全人類に罪をもたらしたサタンの存在もその働きもこの「神の国」には一切存在せず、その手下である悪霊どももすべて追い出される、という神のご計画の完成を指し示した一つのたとえ「型」なのです。そしてこの箇所ではそれは「悪霊が出て行くと、口がきけなかった人がものを言い始めた」とあるように、「ものを言う、言葉を話す」という行為に結びついています。ここに使われているヘブル語のダーヴァル(דַבַּר)は本来、人ではなく「神が語る、神が告げる」という意味の言葉であり、その初出箇所は創世記 8:15 です。

創世記【新改訳 2017】

8:14 第二の月の二十七日には、地はすっかり乾いた。

8:15 神はノアに告げられた。

8:16 「あなたは、妻と、息子たちと、息子たちの妻たちとともに箱舟から出なさい。

これはかつて全地を滅ぼした大洪水を生き延びたノアに対して神が「告げられた」という出来事であり、ここに聖書で最初のダーヴァルがあります。そしてこの言葉は「地はすっかり乾いた」という事実のゆえに発せられました。それは創世記 1:9 天地創造の「第三日」にあるように、再び地と海が分けられ、はっきりと区別されたということであり、神の選びによりノアの箱舟によって救われたものたちはみな

この地に住み着き、それ以外のものはみな海に飲み込まれ死に絶えました。このように、ダーヴァルとは本来、神による救いと滅び、すなわち神の裁きのご計画を指し示す言葉なのです。

そしてこの「**口がきけなかった人がものを言い始めた**」というダーヴァルを目の当たりにした群衆は「**驚いた**」ともあります。そりゃ驚くのは当たり前、驚いて当然でしょ、とつぶやくだけで読み飛ばさないでください。この「**驚いた**」という言葉にも**驚くべき神のご計画が秘められている**のです。ここに使われているターマハ(תַּמְחָה)の初出箇所を見てください。

創世記【新改訳 2017】

43:33 彼らはヨセフの前で、年長者は年長の席に、年下の者は年下の席に座らされたので、一同は互いに驚き合った。

これは当時の世界最大の王国エジプト、その宰相、王に次ぐ権力者となったヤコブの子ヨセフの物語のそのクライマックスで、かつて自分を奴隷として売り飛ばした兄弟たちの前に、ついにその正体を明かすという場面です。ヨセフの兄弟たち、すなわちイスラエルの息子たちが年長者から若い者にいたるまで、すべての兄弟たちが集められ、ヨセフの前に「**座らされた**」という事実を指してこのターマハが使われています。この様子、この出来事もまた単なる過去の事実ではなく、やがて成し遂げられる神のご計画の「型」なのです。それはすなわちヨセフの前にイスラエルの子らが座らされたように、やがてイエシュア「ヨセフの子と呼ばれた (ルカ 3:23、ヨハネ 1:45)」この御方の御前に、イスラエルの十二部族が集められ、ともに住むようになる、という「神の国」の完成された姿が指し示されているのです。このように、神による全地、全人類の救いと滅びという壮大な神の御業、「神の国」の完成には、神の御子、主イエシュアの存在はもちろんのこと、この御方によって集められるイスラエルの子ら、イスラエル十二部族の存在もまた必要不可欠な存在であることがここには示されているのです。ではこれらの意味、神の国の奥義を踏まえた上で、次の内容に入ってまいりましょう。

2. ベルゼブル

ルカの福音書【新改訳 2017】

11:15 しかし、彼らのうちのある者たちは、「悪霊どものかしらベルゼブルによって、悪霊どもを追い出しているのだ」と言った。

11:16 また、ほかの者たちはイエスを試みようとして、天からのしるしを要求した。

11:17 しかし、イエスは彼らの心を見抜いて言われた。「どんな国でも内輪もめしたら荒れすたれ、家も内輪で争えば倒れます。

11:18 あなたがたは、わたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出していると言いますが、サタンが仲間割れしたのなら、どうしてサタンの国は立ち行くことができるでしょう。

11:19 もし、わたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているとしたら、あなたがたの子らが悪霊どもを追い出しているのは、だれによってなのですか。そういうわけで、あなたがたの子らがあなたがたをさばく者となります。

これらの記述は、人々からの誹謗中傷を受け、悪霊呼ばわりされたイエシュアが、自分の正しさを弁明するために論じているものではありません。群衆の言葉を受けて、イエシュアがここで語っておられることとは、「ベルゼブル」によって引き起こされる「内輪もめ」によって「サタンの国」は崩壊する、という終わりの日の一つの預言です。このベルゼブル(בְּעֵלְזְבוּל)とは、バアル(בְּעַל)とゼブル(זְבוּל)の二つの言葉からなる名前で、その意味は「家の主人」または「ゼブルの主人」となります。この「ゼブル」とは何者かといいますと、彼は士師記 9 章に登場する人物で、イスラエル十二士師の一人ギデオンの、その息子の一人であるアビメレクに仕えた人物です。彼ゼブルが仕えたアビメレクとは 70 人いた自分の兄弟を皆殺しにし、神のわざわいの霊を受けましたが(士 9:23) 三年間イスラエルを支配したという悪王で、その最期は一人の女が投げたひき臼の石で頭を砕かれて死ぬという人物です(士 9:53)。それはまるで「女の子孫によって頭を打ち砕かれる(創 3:15)」と言われた蛇すなわちサタンの「型」です。そんなアビメレクに仕えたのがこのゼブルという人物です。このアビメレクとゼブルは結託して多くのイスラエルの民をだまし討ちで殺しました。これは終わりの日に起こる大きな患難の中でイスラエルを根絶やしにしようとする悪魔サタンとその息子である獣、反キリストの「型」と言えます。そのような存在を指し示す名がこの「ベルゼブル」というわけです。

そしてこの「ベルゼブル」によって引き起こされる「内輪もめ」とは何かといいますと、ここに使われている「分ける」という意味のハーラク(חֲלָק)の初出箇所にその「型」が見られます。

創世記【新改訳 2017】

14:14 アブラムは、自分の親類の者が捕虜になったことを聞き、彼の家で生まれて訓練された者三百十八人を引き連れて、ダンまで追跡した。

14:15 夜、アブラムとそのしもべたちは分かれて彼らを攻め、彼らを打ち破り、ダマスコの北にあるホバまで追跡した。

これはイスラエルの父祖アブラムがその生涯で戦ったただ一度の戦の一場面ですが、「アブラムとそのしもべたちは分かれて…攻め」という箇所に聖書で最初のハーラクがあります。このように、本来のハーラクは「内輪もめ」とは真逆の意味で使われた言葉でした。ですからイエシュアがたとえられた「ベルゼブル」によるこの「内輪もめ」とは、終わりの日に現れる獣、反キリスト、彼の出現によって「アブラムとそのしもべたちは分かれ」ることを意味しており、それはつまりイスラエルと教会が分かれて、異なる方向から、異なる道を通って同じ場所に向かうことを意味しており、それはもちろん世の終わりの大患難と携挙の事実を指し示しています。イスラエルの民はイエシュアこそがメシアであることに目が開かれるため、また多くの異邦人にその真実を伝えるために大患難を通り、地上再臨されるイエシュアを地上で迎え、「神の国」に入ります。一方、私たち教会は空中に再臨されるイエシュアによってよみがえらせられ、天に引き上げられます。そして大患難の終わりにイエシュアとともに地上に戻り、同じく「神の国」に入るのです。つまりこれらイスラエルと教会に対する二つの出来事は、反キリストの出現によって起こるということが暗示されているのです。そしてこれらの神のご計画が成就したならば、これによってまさに地上は「サタンの国は立ち行くことが」できない、ということになるのです。

3. 神の指

ルカの福音書【新改訳 2017】

11:20 しかし、わたしが神の指によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。

11:21 強い者が十分に武装して自分の屋敷を守っているときは、その財産は無事です。

11:22 しかし、もっと強い人が襲って来て彼に打ち勝つと、彼が頼みにしていた武具を奪い、分捕り品を分けます。

11:23 わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしとともに集めない者は散らしているのです。

「神の国は…来ているのです」と、イエシュアの語られることは、たとえ人に何を言われようと、悪霊呼ばわりされようともこの「神の国」の視点、論点から外れません。この世について、人について問われようともすべて「神の国」のメッセージで切り返し「神の国」についてのみ語る、それがイエシュアという御方です。ここからまた一つのたとえをもってイエシュアはさらに「神の国の奥義」を語っていかれます。「神の指によって」というこの言葉、この表現は本来、出エジプト記にあるモーセを通して神がエジプトの国を打った十の災いと呼ばれる天変地異を指し示すものです（出 8:19）。終わりの日にもこのような災害が、これまで以上の規模で起こると言われていますが、その目的はこれと同様で、すなわちイスラエルの神がご自分の民をこの世の王から取り戻す、奪い取ることにあります。それはまさに「もっと強い人が襲って来て彼に打ち勝つと、彼が頼みにしていた武具を奪い、分捕り品を分けます」というたとえそのものです。終わりの日、空中再臨されるイエシュアは私たち教会をこの世から、また死の中から奪い取るという復活をもって、私たちをご自分の民、花嫁とされます。そして地上再臨されるイエシュアが獣、反キリストからエルサレムを、イスラエルの民を奪い返されることもまた重ねられてここにはたとえられているのです。このように、主イエシュアはこの世のどんな力よりも、また死の力よりも「もっと強い人」なのです。そしてこの御方によってしか救いはありません。イエシュアに味方しない、イエシュアに従わない者はみなイエシュアの敵となり、滅ぼされます。「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです（使 4:12）。」と書いてあるとおりです。

4. 最後の状態

ルカの福音書【新改訳 2017】

11:24 汚れた霊は人から出て行くと、水のない地をさまよって休み場を探します。でも見つからず、『出て来た自分の家に帰ろう』と言います。

11:25 帰って見ると、家は掃除されてきちんと片付いています。

11:26 そこで出かけて行って、自分よりも悪い、七つのほかの霊を連れて来て、入り込んでそこに住みつきます。そうすると、その人の最後の状態は、初めよりも悪くなるのです。」

このたとえは、その途中で信仰を捨ててしまうクリスチャンに適用することが多いのですが、これはイスラエルの都、エルサレムにも当てはめることができます。かつてこの都はエブス人のものでしたが

これをダビデが追い払い、自分の町としました（Ⅱサム 5:7）。そこに息子ソロモンが神殿を建て、栄華を極めました。しかし彼の妻たちによって数々の偶像が持ち込まれ、エルサレムはまさに「初めよりも悪く」なりました（Ⅰ列 11 章）。またバビロン捕囚の 70 年を経てエルサレムに帰還したユダヤ人たちは再び神殿を建て、これを整えました。しかしやがてそこは不正な両替や商売を行う場所となり、イエシュアはこれを「強盗の巣（ルカ 19:46）」と呼びました。そして終わりの日、神殿は三度（みたび）建てられようとしていますが、この神殿はやがて獣、反キリストの神殿となり、まさに「その…の最後の状態は、初めよりも悪くなるのです」とたとえられたイエシュアの預言が、イスラエルの都、エルサレムの上に成就するのです。しかしエルサレムに対する神のご計画はもちろんこれで終わりではありません。最後には幸い、祝福となることを指し示して次の節があります。

5. 幸い

ルカの福音書【新改訳 2017】

11:27 イエスがこれらのことを話しておられると、群衆の中から、ある女が声をあげてイエスに言った。「あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は幸いです。」

11:28 しかし、イエスは言われた。「幸いなのは、むしろ神のことばを聞いてそれを守る人たちです。」

「あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は幸いです」というこの言葉はイスラエルを、ユダヤ人を祝福する言葉です。なぜならイエシュアはユダヤ人の母からお生まれになり、ユダヤ人として育てられたからです。しかしイエシュアは「神のことばを聞いてそれを守る人たち」もまた幸いだと語られました。私たちは今、イスラエルを、アブラハムの子孫であるこの民を祝福する者は神に祝福されるというこの御言葉を聞いて知っています。

創世記【新改訳 2017】

12:1 【主】はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。」

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。」

12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

この事実、この約束を私たちは聞いて知っています。そして何度も繰り返し、聞き続けています。これがどれほど幸いなことかということをご覚悟いただきたいのです。私たちは今このようにイスラエルについての神のご計画についての御言葉を毎週、毎回こうして聞くことができている、聞き続けているというこの事実はまさに「神のことばを聞いてそれを守る人たち」なのです。そんな私たちに対してこの世は目の欲、耳の欲を掻き立てるような様々な魅力的な、刺激的な、しかし偽りの虚しい言葉や表現を数多く送って来ますが、今このようにして私たちはたしかに「神のことばを聞いてそれを守る人

ち」、御言葉を聞くことができるように神に選ばれ、そして守られている人たちなのです。これが幸いでなくて何でしょう。このように、幸いとは健康であったり経済的に豊かであったりすることではありません。御言葉を、その中に秘められた神のご計画の完成、「神の国の奥義」を聞くことができる、聞き続けることができているというこの状態です。なぜなら今私たちが聞いているこの御言葉はすべて必ず実現する神のご計画であり、必ず救われるという絶対の約束を伴ったものだからです。どうかこれからも皆さん一人ひとりが「神のことばを聞いてそれを守る」ことができますように。